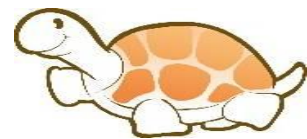




のこのこたより

令和 7年 5月 121号



社会福祉法人晃宝会

特別養護老人ホームあじさい園 宝

住所：奈良市南肘塚町99番1

電話：0742-24-0878

fax：0742-23-0373

「一人に一台一生寄り添うスマートロボット」

国のムーンショット型研究開発事業として、2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動、人と共生するロボットを実現する、という目標があります。少子高齢化の進行と、医療・介護の現場での人手不足などから、一人一人に寄り添い、一台でさまざまな作業をこなすロボットの実現です。現在のロボットは複数のタスクをこなすことはできず、人との接触に適した柔らかさ・繊細さとパワーの両立も果たされていません。人工知能（AI）をロボットの制御に用いるには、実世界の物事とデータの関連性をいかに持たせるかが課題です。倫理的・法的・社会的課題や国際的視点から、ロボットと人の共生のあるべき姿を探る必要があります。

2050年に、ビジネス、家事、介護、看護、治療を自律的に実行可能なスマートロボット（アイレック）を実現することを目指して、開発されています。具体的には、ビジネスにおける接客、家事タスクとして調理・洗濯・清掃など、介護タスクとして移乗支援・清拭・食事介助など、看護タスクとして検査・案内・点滴交換など、診断・治療補助タスクとして自動検査・手術支援などです。身体と制御システムでは、人と接触可能な柔らかい身体構造を備え、自己修復機能を有するスマートロボット。知能システムについては、AIの理解を深め、ロボットが人の感覚運動を学習して高難度タスクを実現し、人との情動コミュニケーションがとれること。福祉・医療への展開技術の構築として、治療・看護・介護支援の自動化と、この分野のタスクに順応するロボットハンドの開発です。

ロボットの革新・AIの革新・社会実装・社会ニーズの分析、の各専門家が結集してこのプロジェクト（ロボットの機械的柔軟性・AIによる環境適応性・実空間での柔軟な身体知・相互誘導型コミュニケーション知能）を成功させようとしています。2050年には必ずここのまで行こう！という、未来のために、難易度の高い目標を掲げ、研究室の中で必死に取り組んでおられる頭脳集団（研究者）に心から敬意を表し、エールを送り、成功を祈ります。

本末先生によります、健康体操開催！
本日はとても暖かい日で、ご利用者様は身体を動かされ気持ちの良い汗をかかれました。



あじさいサロンに参加され、地域の皆様と手話やリズム体操、季節の歌を楽しみました。



鴻ノ池公園でお花見をしました。ご家族様にも参加いただき素敵な笑顔の記念撮影ができました。



GHのご利用者様は、スタッフと一緒に貼絵を楽しみ、見事な桜の壁画が完成しました。



晃宝会の創立記念日にお祝いの松花堂弁当を召し上がっていただきました。



美味しそうなお弁当に思わず「にっこり」され、どのご利用者様も完食されました。



園庭でさくらカフェを開き好きな飲み物を召し上がっていただきながらお花見を楽しんでいただきました。



5月の行事予定

5日：端午の節句（昼食会）12:00
12日：あじさいサロン 14:00
16日：誕生日会（手作りケーキ）15:00
21日：極楽棒あすかこども園との 10:15
交流会



いつもご協力、ご支援ありがとうございます。
事前予約での面会を行っております。お忙しい中面会にお越しいただきありがとうございます。

第 97 回 歯みがきの歴史④

歯の掃除は奴隷まかせ

広大な世界帝国を築いた古代ローマでは、市民が毎日のように公衆浴場に通い、化粧や衣装などのおしゃれにも気がつかいました。そして、市民の間では、白い歯が美の条件となりました。

手入れを怠れば、歯には歯垢(しこう)が溜まり、黄ばんでしまいます。歯を白く保つことができたのは、奴隷に歯の手入れをさせていた、一部の裕福な人々に限られていました。だから白い歯はステータスシンボル。その歯を見せようとして、いつも笑っている人物を風刺する文書も残っています。

そうした中、医師たちはさまざまな歯みがき剤を考え出しました。たとえば、動物の骨や卵の殻を焼いた灰に甘松香スパイクナード(かんしょうこう)やミルラ(没薬・カンラン科の低木から分泌される樹脂)を混ぜたもの。灰には歯垢や着色汚れを取る研磨作用があったと思われます。漢方薬の一種である甘松香や、植物の樹脂からつくられるミルラには鎮静作用があり、よい香りがします。

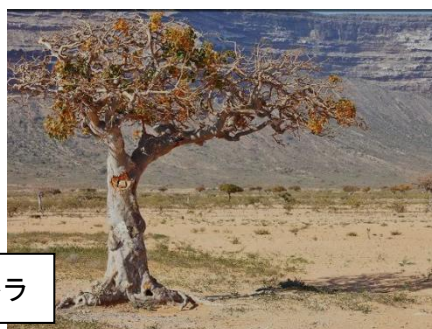
初代皇帝アウグストゥスの姉・小オクタヴィアは、その美德で慕われた女性ですが、愛用していた歯みがき剤には塩が使われています。最近の歯みがき剤と共通するところがあったようです。



身だしなみを整える古代ローマの女性。キューピットに鏡を持たせている。ポンペイの秘儀荘の壁画。



ミルラ



甘松香

怪しい歯みがき剤も横行

一方、かなり怪しげな方法もありました。

焼いた干しイチジクの粉に蜂蜜を混ぜたものは、歯の黒ずみにこすりつける漂白剤。若い女性の尿で口をすすぐと歯が白くなるとも考えられていました。確かに尿素には漂白作用がありますが……。

『博物誌』を著した大プリニウスは、歯を丈夫にするために、羊のしっぽについた汚物を使い、爪楊枝としてネズミの頭の尖った骨や、満月の夜に捕まえたトカゲの前足の骨を使うと紹介しています。偉大な博物学者が書き残したことです。

これで歯が本当に丈夫になったでしょうか。試してみるには、かなりの勇気が必要です。